

第4回草津市総合計画審議会 会議録

■日時：

令和元年12月18日（水）14時00分～16時00分

◆場所：

草津市役所8階 大会議室

■出席委員：

赤星委員、井上委員、上野委員、北村委員、喜田委員、木村委員、肥塚委員、小寺委員、清水委員、田中委員、塚口委員、中嶋委員、中村委員、三浦委員、南(英三)委員、宮城委員、宮下委員、森川委員、森田委員、森本委員、谷地田委員、山口委員

■欠席委員：

安里委員、宇野委員、角谷委員、土山委員、南(弘蔵)委員、山下委員

■事務局：

総合政策部 岡野部長、金森副部長
企画調整課 松浦課長、小川課長補佐、村上副係長、力石主査、小林主任

■傍聴者：

なし

1. 開会

- 開会にあたって、岡野総合政策部長より挨拶

- 事務局

- ・草津市総合計画審議会設置条例施行規則第5条第2項に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており審議会が成立していることを報告。
- ・配布資料の確認

2. 審議

第6次草津市総合計画 基本構想（案）について

（1）将来ビジョンについて

- 事務局

<資料1・2について説明>

- 委員

「人と“つながる”ことで、心も体も健康となり」のイメージが湧かない。どのような考え方か。

- 事務局

人と人がつながることで、コミュニケーションや活動が生まれ、心や体が健康になってい

くさまを表している。

●委員

“つながり”によってどう健康になるのかイメージが沸かないため、「居場所」や「助け合い」など具体的な言葉を記載いただきたい。

●事務局

御意見の視点は重要であると考えており、具体的には基本計画の中で記載していきたいと考えている。

●委員

これから草津市が何をしていくのか一目でわかるような魅力的なキャッチフレーズがあれば良い。

●事務局

将来ビジョンのキャッチフレーズについては、現在、検討中であり、御意見を参考にさせていただく。

●委員

人のつながりが健康を生み出しているという視点は大切であり、今後も残していただきたい。

●事務局

人のつながりの視点を大切に、計画策定に取り組んでいきたいと考えている。

●委員

視点3について、「結び」と「つながり」が意味合いとして被っている。また、接続詞も「また」ではなく「そして」の方が適切ではないか。

●事務局

検討する。

●委員

「地域」と「まち」の使い方の違いを教えてください。

●事務局

「地域」は学区や町内会単位の地域を想定しており、「まち」は市内全域を想定している。

●委員

「-地域のつながり-」の「地域の魅力」「資源」というのは、具体的にどのようなものか教えてください。

●事務局

「魅力」は地域ごとの特徴や地域で活動されている団体など人や団体・企業あるいは地域の行事等をイメージしている。また、寺院や大学などの施設も資源であると考えている。

●委員

ハード面、ソフト面の双方を含んだものと考えてよいか。

●事務局

その通り。

●委員

他の自治体名で読み替えても通じるような内容であり、草津市らしさをもっと表現できないか。

●事務局

将来ビジョンや基本計画の中での具体的な取組の中で草津らしさを表現できればと考えている。

●委員

草津市らしさについて、本審議会のようなすべての市民がまちづくりに参画できることだと考える。「参画」を計画のどこかに記載してはどうか。

●事務局

御意見の視点については、重要な視点であると考えており、まちづくりの基本理念などに「参画」を記載することを検討する。

●委員

資料1 右上のたび丸が、目から炎が出ていて可愛くないので他とテイストを合わせた方が良いのではないか。

●事務局

挑戦的なイメージをもとに使用しているが検討させていただく。

●会長

草津市は湖南地域の産学の拠点であり、市外に住んでいる人も集まる場所であるため、その人たちの視点も含めていただきたい。

(2) 将来のまちの構造について

●事務局

<資料2 28 ページについて説明>

●委員

第5次草津市総合計画から区分けを変更しない理由について、都市構造が成熟している

という説明があったが、成熟とはどのような意味か。

●事務局

今後、人口減少局面を迎えることもあり、これまでの市街地を拡大していくまちづくりから転換し、コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりを進めていることから、都市構造としては成熟していると考えている。

●委員

総合計画の将来のまちの構造に書くからには、市は平野南笠線を開通させる意思があるという表明で良いか。

●事務局

毎年、県に対して平野南笠線の早期整備の要望を行っている。引き続き、総合計画において平野南笠線を位置付け、早期開通を目指した取組を進める。

●委員

平野南笠線については遥か昔から計画はあるが、いまだ実現していない。完成は難しいものと感じているが、整備に向けた取組を進めてほしい。

●委員

「ひがし環状軸」が栗東市にもかかっているが問題ないのか。また、市外を含めるのであれば、例えば大江霊仙寺線の先線を烏丸半島に繋がる軸に設定しても良いのではないか。

●事務局

栗東市にかかっている「下笠下砥山線」については、都市計画決定されている道路でもあることから、市の総合計画や都市マスにおいても交通の軸として位置づけている。また、大江霊仙寺線の先線の軸への設定については検討する。

●委員

下笠下砥山線の砥は戸が正しい地名ではないか。

●事務局

都市計画道路の名称として現行のとおりで決定されている。

●委員

観光レクリエーション拠点とにぎわい拠点を結ぶ軸など、市全体で戦略的な記載はできないか。また、観光レクリエーション拠点として帰帆島は設定できないか。

●事務局

検討する。

●委員

共生ゾーンについて、農業や水産業が行われている地域であるという視点は加えられな

いか。

●事務局

検討する。

●会長

地域の立地特性や特徴を踏まえ、共生ゾーンを「湖岸・農業・再生ゾーン」、文化・交流ゾーンを「山手・産業・学術ゾーン」とするなどゾーンの名前は再検討いただきたい。

●事務局

検討する。

(3) まちづくりの基本理念について

●事務局

<資料2 29 ページ以降について説明>

●委員

協働の視点は重要であるが、書きぶりが堅い印象を受ける。SDG s も草津市の行政にどのように反映されるのかが分かりにくい。

●事務局

協働の視点は非常に大事だと思うので、書きぶりについては検討させていただきたい。また、SDG s については、第6次草津市総合計画では、重要な要素として考えており、市民の方に市の取組がSDG s にどのように関係しているかを分かりやすくするため、基本計画において分野ごとに17の目標のロゴを記載することを検討している。

●委員

常盤には文化財が多く観光レクリエーション拠点に限らず観光についてPRを行っていただきたい。

●事務局

市の歴史文化基本構想等でも文化財の「活用」の視点を重視しており、御意見のとおり、常盤には、文化財をはじめ、多くの地域資源があるため、観光の取組をさらに進めていくことは重要であると考えている。

●委員

「つながり」という言葉で将来ビジョンを整理したように、まちづくりの基本理念も「つながり」から整理するべきではないか。また、SDG s の理念は2030年で最終年度を迎えることもあり、ここで特出すべき内容ではないのではないか。

●事務局

「つながり」についてはまちづくりの基本理念の特に前段の部分で何らかの形で記載することを検討させていただきたい。また、SDG s については御意見のとおり2030年为目标年次

であり、第6次総合計画の計画期間中に目標年次を迎えるものの、SDGsの理念は、行政の取組と通ずるところがあり、目標年次後もその理念が大きく変わることはないと考えており、原案のとおりとさせていただきたい。

●委員

31ページの「長寿・介護」の、「認知症があっても」の主語は何か。また、「認知症」という特定の言葉が出ているが、草津市が認知症に対して何か対策を打つということなのか。

●事務局

主語は、認知症を患われる本人である。当該項目は、現在、(仮称)認知症があっても安心なまちづくり条例の制定に向けた取組を進めていることから記載しているが、書きぶりについては検討する。

●委員

「健康」について、健康づくりに向けた環境づくりについての視点がないため検討いただきたい。

●事務局

検討する。

●委員

冒頭に「市が市民と協働する」という内容が書かれているが、実際に市民は何ができるのか、というところが見えにくい。また、今後ITやAIが生活に大きくかかわってくる中で、協働やSDGsのこと以上の、もうすこし高い視点の理念が必要ではないか。

もう少し子どもに思いきり投資するまち、というような言葉や考え方があると良いのではないか。

●事務局

ここでは、協働の視点を記載しており、基本計画において、分野ごとに行政や市民の役割の記載を検討している。また、御意見のとおり、これからの社会変化を見据えた中での視点は重要であると考えており、行財政マネジメントの項目では、AIやRPA等の先端技術の活用についての視点を記載している。

若い世代への投資につきましても、御意見のとおり重要であると考えており、現在の総合計画においても、草津市のまちづくりを先導・けん引するリーディング・プロジェクトと位置付けている。第6次総合計画においても重要なものとして位置付けることを検討する。

●委員

「地域福祉」の「地域共生社会」の考え方について、すべて「丸ごと」の視点が見えない。また、「コミュニティ」について、従来型コミュニティへの対価やボランティアの有償化に反対するものではないが、総合計画に記載すべきではないのではないか。

「社会情勢の変化について」には「発災後の支援等の充実に向けた取組」について記載されているが、まちづくりの基本理念の「防災」には「災害時要援護者支援対策」としか記載されておらず、ボランティアセンターの運営業務等も含まれるのかが分からない。

●事務局

「地域福祉」「コミュニティ」は担当部にも確認のうえ検討する。防災については記載が不足している視点もあり検討する。

●委員

まちづくりの基本理念は将来ビジョンに関連させて記載すべきではないか。

●事務局

検討する。

●委員

「農林水産」について、優良農地の保全や整備と記載されているが、それ以外の農地についても配慮いただきたい。また、水産業等という括りに付け足されたように感じる。

●事務局

優良農地の記載については、記載方法を検討する。また、水産業等については、畜産業も想定しており、付け足しという意図では記載していない。

●委員

「子ども子育て・若者」について、「子どもの権利」について記載されていることは良いことだが、現行の分野名では「子ども」に対する施策が読み取れないので、分野名や記載方法を検討いただきたい。また、「『あらゆる子ども』の権利」ではなく「『子どもの権利』をあらゆる子どもに保障する」など、「子どもの権利」という言葉を大切に、強く押し出していただきたい。

●事務局

検討する。

●委員

協働の視点について、今の行政の仕事を市民と協働するだけでなく、新たな取組について、ゼロベースから行政と市民が協働して取り組んでいくという視点も重要ではないか。今後、基本計画ではより具体的な内容を記載されると思うので、検討いただきたい。

また、「人権」「男女共同参画」が「学び・文化（検討中）」の括りの中に含まれている理由は何か。

●事務局

フラットな形で市民に参画いただくことも必要と考えており、御意見を参考にさせていただく。分野の括りについては、これまでの総合計画における分け方と同様であり、人に焦点をあてた分野を並べている。

●委員

引きこもりや生きづらさを感じている方へのフォローはどのようにすることを考えてい

るか。

●事務局

御意見の視点は重要であると考えており、今後、具体的な取組を記載する基本計画において検討する。

●委員

草津市にとって観光は大切な産業であり、「商工」「観光」と分けてはどうか。また、働く場の確保、職住近接について記載いただきたい。

●事務局

観光は産業振興とは切り離せないものと考えており、「商工」と「観光」を分けない予定であるが、「観光」は大切な要素であり、「観光」の視点がより伝わる記載を検討する。また、働く場の確保等についての御意見の記載についても併せて検討する。

●会長

行財政マネジメントやP19の「自立した自治体経営に向けて」の中にAIやRPAの活用にあたって、行政の効率化の視点しか含まれていないが、市民サービスの向上の視点も含めていただきたい。

また、将来ビジョン、まちづくりの基本理念、基本計画がそれぞれどのような位置付けで、どう関連するのか説明書きを追記いただきたい。

●事務局

検討する。

3. 閉会

●事務局

次回の委員会は1月下旬を予定。

配布の日程調整表にて、3月開催分と合わせて審議会後に事務局まで直接または郵送提出をお願いします。

●閉会にあたって、金森総合政策副部長より挨拶